

概略評価による流水の正常な機能の維持対策案の抽出

本明川ダム建設事業

平成25年 6月 5日

国土交通省 九州地方整備局

概略評価による流水の正常な機能の維持対策案の抽出(案)

本明川ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場(第1回)(資料-4)に赤囲みを加筆

No.	グループ	No.	対策案	概略評価による抽出		
				概算事業費(億円)	判定	不適当と考えられる評価軸とその内容
1	施設の新設による案	(1)	河道外貯留施設(貯水池)	約390	○	
		(2)	ため池	約440	×	コスト・対策案(1)と比べてコストが高い
		(3)	海水淡水化	約400	×	コスト・対策案(1)と比べてコストが高い
2	既存施設を有効活用する案	(4)	ダム再開発(萱瀬ダムかさ上げ)	約280	○	
		(5)	ダム再開発(萱瀬・土師野尾ダムかさ上げ)	約370	×	コスト・対策案(4)と比べてコストが高い
		(6)	ダム再開発(萱瀬ダム掘削・かさ上げ)	約640	×	コスト・対策案(4)と比べてコストが高い
		(7)	ダム再開発(萱瀬ダムかさ上げ) +ダム再開発(土師野尾ダム掘削)	約440	×	コスト・対策案(4)と比べてコストが高い
		(8)	ダム再開発(萱瀬ダムかさ上げ) +ダム再開発(小ヶ倉ダム掘削)	約520	×	コスト・対策案(4)と比べてコストが高い
		(9)	他用途ダム容量買い上げ(萱瀬ダムの利水容量) +ダム再開発(萱瀬ダムかさ上げ)	不確定	○*	
		(10)	他用途ダム容量買い上げ(土師野尾ダムの利水容量) +ダム再開発(萱瀬ダムかさ上げ)	不確定	○*	
		(11)	他用途ダム容量買い上げ(小ヶ倉ダムの利水容量)	不確定	○*	
3	施設の新設と既存施設の有効活用を組み合わせる案	(12)	ダム再開発(土師野尾ダムかさ上げ) +河道外貯留施設(貯水池)	約380	○	
		(13)	ダム再開発(萱瀬ダム掘削) +河道外貯留施設(貯水池)	約620	×	コスト・対策案(12)と比べてコストが高い
		(14)	ダム再開発(土師野尾ダム掘削) +河道外貯留施設(貯水池)	約420	×	コスト・対策案(12)と比べてコストが高い
		(15)	ダム再開発(小ヶ倉ダム掘削) +河道外貯留施設(貯水池)	約410	×	コスト・対策案(12)と比べてコストが高い
		(16)	他用途ダム容量買い上げ(萱瀬ダムの利水容量) +河道外貯留施設(貯水池)	不確定	○*	
		(17)	他用途ダム容量買い上げ(土師野尾ダムの利水容量) +河道外貯留施設(貯水池)	不確定	○*	

※「他用途ダム容量買い上げ(利水容量)」を含む対策案については、利水者へ意見聴取を行うことから、判定結果は未確定。

流水の正常な機能の維持対策案に対する意見聴取結果について

■概略評価による抽出結果を未確定としていた「他用途ダム容量買い上げ」を含む対策案に対する、主な河川使用者からのご意見は以下のとおり。

方 策 名	主な河川使用者	ご 意 見 の 内 容
他用途ダム容量 買い上げ (萱瀬ダムの 利水容量)	長崎県	萱瀬ダムでは、計画通りの容量でダム運用が行われていることから、容量買い上げは極めて困難と判断する。
	長崎市	萱瀬ダムの利水容量の買い上げについては、本市が上水道事業を行う上での水源として、現在使用していることから、認められません。
	大村市	<p>萱瀬ダムは、昭和36年の建設以来、長年にわたり大村市及び長崎市の生活用水確保のほか、河川流域の洪水調節や農業用水、不特定利水等の治水機能など重要な役割を担ってきた。</p> <p>また、近年の給水人口の増加に対応し、将来にわたる安定的な生活用水を確保するため、昭和56年から平成13年にかけて大規模な萱瀬ダムの嵩上げ工事（第9回拡張工事）を実施したところである。</p> <p>今回、本明川ダム建設の代替案として国から示された萱瀬ダムの新たな嵩上げ計画については、第9回拡張工事後の貯水及び給水状況の推移を踏まえると、ダム嵩上げ後の分水や利水の買い上げの実現性は厳しく、また、さらなる嵩上げによる河川生態系への大きな影響も懸念される。</p> <p>このようなことから、本明川ダム事業の流水の正常な機能の維持対策について、本市として現計画（他用途ダム容量買い上げ（萱瀬ダムの利水容量））の受け入れは極めて困難であると判断する。</p>
他用途ダム容量 買い上げ (土師野尾ダム の利水容量)	長崎県	土師野尾ダムでは、計画通りの容量でダム運用が行われていることから、容量買い上げは極めて困難と判断する。
	諫早市	土師野尾ダムは、諫早市水道事業の貴重な水道水源です。飲料水の供給を図る上で常時取水しており、譲渡することはできません。
他用途ダム容量 買い上げ (小ヶ倉ダムの 利水容量)	長崎県	小ヶ倉ダムでは、農業用かんがい用水等として計画通りの容量でダム運用が行われていることから、容量買い上げは極めて困難と判断する。
	諫早市	<p>小ヶ倉ダムの利水容量の一部は、諫早市水道事業の貴重な水道水源です。飲料水の供給を図る上で常時取水しており、譲渡することはできません。</p> <p>また、農業用水は利水者が小ヶ倉ため池土地改良区であるため、同団体の意見を尊重して頂くことで、諫早市としての意見は特にありません。</p>
	小ヶ倉ため池 土地改良区	<p>小ヶ倉ダムは、県営かんがい排水事業により、水源に乏しく農業用水不足に悩まされていた為に、干ばつ被害を除去し、農業経営の安定化を図る目的で造成されたダムではあるが、平成6年の渇水時は、用水不足となり、営農に支障をきたした事もあった。</p> <p>もし、容量を買い上げとなると用水不足が目に見えており、また地元（受益者）の合意も得られる見込みもない為、容認出来ません。</p>

概略評価による流水の正常な機能の維持対策案の抽出

No.	グループ	No.	対策案	概略評価による抽出		
				概算事業費 (億円)	判定	不適当と考えられる評価軸とその内容
1	施設の新設による案	(1)	河道外貯留施設(貯水池)	約390	○	
		(2)	ため池	約440	×	コスト・対策案(1)と比べてコストが高い
		(3)	海水淡水化	約400	×	コスト・対策案(1)と比べてコストが高い
2	既存施設を有効活用する案	(4)	ダム再開発(萱瀬ダムかさ上げ)	約280	○	
		(5)	ダム再開発(萱瀬・土師野尾ダムかさ上げ)	約370	×	コスト・対策案(4)と比べてコストが高い
		(6)	ダム再開発(萱瀬ダム掘削・かさ上げ)	約640	×	コスト・対策案(4)と比べてコストが高い
		(7)	ダム再開発(萱瀬ダムかさ上げ) +ダム再開発(土師野尾ダム掘削)	約440	×	コスト・対策案(4)と比べてコストが高い
		(8)	ダム再開発(萱瀬ダムかさ上げ) +ダム再開発(小ヶ倉ダム掘削)	約520	×	コスト・対策案(4)と比べてコストが高い
		(9)	他用途ダム容量買い上げ(萱瀬ダムの利水容量) +ダム再開発(萱瀬ダムかさ上げ)	不確定	×	実現性 ・萱瀬ダムの利水容量買い上げに対し、関係利水者に当該案に対する意見を聞いたところ、「上水道事業を行う上での水源として使用しているので認められない」との回答があった。
		(10)	他用途ダム容量買い上げ(土師野尾ダムの利水容量) +ダム再開発(萱瀬ダムかさ上げ)	不確定	×	実現性 ・土師野尾ダムの利水容量買い上げに対し、関係利水者に当該案に対する意見を聞いたところ、「貴重な水道水源であり譲渡できない」との回答があった。
	(11)	他用途ダム容量買い上げ(小ヶ倉ダムの利水容量)	不確定	×	実現性 ・小ヶ倉ダムの利水容量買い上げに対し、関係利水者に当該案に対する意見を聞いたところ、「受益者の合意を得られる見込みもない為、容認できない」「貴重な水道水源であり譲渡できない」との回答があった。	
3	施設の新設と既存施設の有効活用を組み合わせる案	(12)	ダム再開発(土師野尾ダムかさ上げ) +河道外貯留施設(貯水池)	約380	○	
		(13)	ダム再開発(萱瀬ダム掘削) +河道外貯留施設(貯水池)	約620	×	コスト・対策案(12)と比べてコストが高い
		(14)	ダム再開発(土師野尾ダム掘削) +河道外貯留施設(貯水池)	約420	×	コスト・対策案(12)と比べてコストが高い
		(15)	ダム再開発(小ヶ倉ダム掘削) +河道外貯留施設(貯水池)	約410	×	コスト・対策案(12)と比べてコストが高い
		(16)	他用途ダム容量買い上げ(萱瀬ダムの利水容量) +河道外貯留施設(貯水池)	不確定	×	実現性 ・萱瀬ダムの利水容量買い上げに対し、関係利水者に当該案に対する意見を聞いたところ、「上水道事業を行う上での水源として使用しているので認められない」との回答があった。
		(17)	他用途ダム容量買い上げ(土師野尾ダムの利水容量) +河道外貯留施設(貯水池)	不確定	×	実現性 ・土師野尾ダムの利水容量買い上げに対し、関係利水者に当該案に対する意見を聞いたところ、「貴重な水道水源であり譲渡できない」との回答があった。